

第4回甲賀市選挙事務不適正処理再発防止委員会

日時：平成30年8月2日（木） 午後1時30分～午後3時30分

場所：甲賀市役所別館1階 101会議室

出席者：小島委員長、山本委員、森地委員、漣委員、岩瀬委員

（再発防止委員会）

平尾委員長、杉本委員、山川委員、下川委員（選挙管理委員会）

伴事務局長、山元書記、山下書記、松岡書記、前田書記

藤谷書記、小高書記（事務局）

【主な発言】

- ・開票の様子を見させてもらったが、再発防止委員会の中間報告を反映させ改善されていると感じた。
- ・従事者へのアンケート集計で、90パーセント以上の職員が選挙事務を自らの本務であるという意識を持って選挙事務に臨めているが、出来なかった方も少数いたようである。できれば、出来なかった方になぜ出来なかったかの検証をしてもらいたい。
- ・投票事務の研修会に参加できなかった人が全体の1/4いる。研修の映像を後日ビデオで見てもらおう等のフォローがあるようだが、今後出先機関の方も参加できる体制作りが必要だと思う。
- ・マニュアルを理解できたというアンケートの結果で90パーセント以上理解できたというのは事務マニュアルも相当分かりやすく改善されたのだと思う。
- ・新しく作成した危機管理対応マニュアルと選挙事務ミス発生事例集の有効性についてもアンケート結果としては非常に良かったのかなと思う。やはり危機管理としてあらかじめ何が危機なのかということ、どういうところでミスが発生しているかということを理解することが大切である。
- ・開票リハーサルでは、実際の模擬票や模擬投票録を使って、最後は開票録までしっかりと書けるように行うことが大切である。
- ・甲賀市の開票事務についての検証を継続的に行い、職員の意識や実務の継承

をしていくことが大切である。

- ・今回の選挙の前後で、大きな地震や、大雨があった。「少しでも日がずれていたら、投開票日に大きな災害がある」というのは珍しいことではない時代なのだと思う。もし重なった際には防災もやりつつ投開票も行わないといけない。
- ・開票の映像を見せてもらい、投票箱100箱というのは、これほど大きなスペースを取るのだと感じた。今までは、「安易に投票箱（投票所）の数を減らすことはどうなのか」と思っていたが、やはり減らすことも考えていかなないといけないと実感した。
- ・中間報告の提言では、余った白票の管理をきっちりすること、投票箱をすべて開けた確認をすることの2つが重要であったと思う。開票事務アンケートの中で、開票所における投票数の確定間際の投票箱の再確認は不要ではないかとの意見があるが、この確認については今後も必要であると思う。
- ・白票の封印については、開票管理者が封印をする際、箱の中身の確認をしてもらった後に印鑑をいただく方がよい。今後はその旨をしっかりとマニュアルに記載しておいて欲しい。
- ・今回の知事選挙と違い、来年の参議院選挙は複数票の選挙となる。開票において、今後、複数票となると投票箱も300、400となり相当混乱する。投票箱の種類の見分けをどのように明確にしていくか、開被台も選挙ごとに分けないといけないので当然広い会場も必要になる。
- ・開票事務では、複数の種類の選挙を同時に行っていないといけないので、従事者の数も相当なものになると思う。それぞれの選挙の種類ごとに責任者を決めて管理していくのが良いと思う。
- ・甲賀市の白票管理方法については、色々なところから訊かれた。非常に良い方法だと思う。今後全国のお手本となるようにさらに仕上げていてもらいたい。
- ・投票所の数が多いという問題について、効率化、合理化に取り組んでいく必要があると感じる。困難を伴うとは思いますが、投票環境を別の方法で維持改善

していくことも含めて考えてもらえたらと思う。

- 今回の件で、市職員の選挙事務やコンプライアンスに関する意識改革が相当進んだと思うが、今後どのように継続的に取り組んでいくかが大切であると思う。我々再発防止委員会としても今後、その議論をしていきたい。

以上